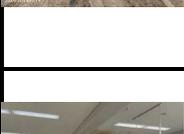


農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
①農業研究部 (計13件)						
1707	農業研究部	<p>【県産茶消費拡大「大分県産茶を飲もう」活動】 (2024. 6. 14発信)</p> <p>6月6、7日の2日間、新茶の販売開始に併せ、センター来場者対象にお茶の消費拡大活動を行いました。お茶の試飲やお茶の入れ方教室を開催し、製茶工程を動画で説明、県産茶の産地や生産者の紹介も行いました。試飲の際には、水温による成分の抽出特性を説明し、温かいお茶と冷たいお茶の違いを体験してもらいました。お茶のリキュール等、新しい茶の楽しみ方も伝えることができました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2024.6.30
1706	農業研究部	<p>【イチゴの遺伝子解析のためにDNAを抽出しました】 (2024. 6. 14発信)</p> <p>イチゴの遺伝子を解析するため、農業研究部で保有するイチゴ160個体の葉からDNAを抽出しました。抽出したDNAは、「かずさDNA研究所」（千葉県）と共同で解析します。 DNAには、各個体の様々な遺伝情報が集約されています。今後は、「イチゴの日持ち性等に関与する果実硬度」に関連する遺伝子を特定していきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1705	農業研究部	<p>【ピーマンにおける混合堆肥複合肥料の利用可能性の検討】 (2024. 6. 13発信)</p> <p>当チームでは、産業廃棄物の利活用やプラスチック含有肥料の削減を目的として、堆肥を原料とした肥料(混合堆肥複合肥料)の試験を行っています。今年度、ピーマンの元肥および追肥に混合堆肥複合肥料を使用して収量性を調査し、利用可能性を検討しています。今回、追肥として混合堆肥複合肥料「レコアップ684」を散布し、なり疲れ(収穫が進むと樹勢が弱る症状)対策に有効かどうかを評価します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1699	農業研究部	<p>【堆肥入り肥料を用いた白ねぎ試験の定植を行いました】 (2024. 6. 11発信)</p> <p>昨年の試験で、「鶏ふん堆肥」という同じ名称で販売されていても、商品によって分解速度が異なる事が明らかになりました。 そこで今年度は、窒素の供給速度の異なる鶏ふん堆肥を原料にして堆肥入り肥料を2種類試作し、白ねぎの栽培試験を開始しました。今後、生育調査や収穫調査を行い、原料となる堆肥の違いが生育に与える影響を検証します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.6.30
1698	農業研究部	<p>【野菜の専門技術研修（1年目）を実施しました】 (2024. 6. 10発信)</p> <p>今年度新たに野菜の普及担当となった県職員とJA職員の14名を対象に、野菜1年目専門技術研修を行いました。果菜類チームの圃場では、ハウス内の灌水量を測定したり、ピーマンの収穫選果作業を体験するなど、実践で用いる技術の習得を行いました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1697	農業研究部	<p>【JAおおいた玖珠九重トマト部会青年部の視察を受けました】 (2024. 6. 10発信)</p> <p>JAおおいた玖珠九重のトマト生産者8名が外気導入試験の視察に来られました。これは、ダクトを通してハウス内に外気を導入することにより植物体表面温度を低下させ、栽培環境の改善を図るもので、昨年度の試験結果や今年度の試験状況を紹介しました。また、今年度の試験内容やハウス内の環境改善技術について情報交換しました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1685	農業研究部	<p>【トマトハウスに外気導入装置を設置しました】 (2024. 5. 21発信)</p> <p>夏期の高温などのハウス内環境を改善し、収量や品質向上を図るために場内トマトハウスに外気導入装置を設置しました。 送風ファンで外気を吸い込み、ダクトを通してハウス内に外気を導入することにより、植物群落内の気温や炭酸ガス濃度、植物体表面温度などがより光合成に適した環境へ改善するかを検証します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1681	農業研究部	【令和6年度の新茶を収穫しました】 (2024. 5. 9発信) 農業研究部の茶園（豊後大野市、標高151m）で4月30日の「あさつゆ」を皮切りに一番茶の摘採、製茶が始まりました。3月末以降の萌芽は遅れ気味だったものの、その後の適度な降雨と高温傾向により、生育は順調です。摘採（約2ha）は5月7日まで行い、並行して試験区ごとの品質分析等の調査を進めています。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.5.31
1680	農業研究部	【新任普及職員（農業・畜産）を対象に研修を実施しました】 (2024. 5. 9発信) 今年度新たに県の農業と畜産の普及担当となった職員に対する研修が行われました。4月25日には農業研究部のピーマン、かんしょ、白ねぎ、茶の圃場・施設見学を実施するとともに各研究員から試験概要の説明を行いました。 今後、5月末からは担当品目に分かれて専門技術研修を実施し、農業技術者として養成を支援していきます。	 研究員からの概要説明	農業研究部 果菜類チーム 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.5.31
1675	農業研究部	【白ねぎの肥料コスト低減に向けた試験を実施します】 (2024. 4. 18発信) 近年、海外情勢により化学肥料の価格が高騰している事から、今年度肥料コスト削減を目的とした新たな試験に取り組みます。そのうちの一つで化学肥料の代わりに鶏糞ペレットを活用した試験を実施します。4月12日に農業研究部の試験圃場（豊後大野市、標高151m）で白ねぎ品種「夏の宝山（みかど）」を定植しました。今後、肥料の違いが白ねぎの生育と収量等に及ぼす影響を明らかにする予定です。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.5.31
1674	農業研究部	【トマトの土壌水分率の現地実態調査を開始しました】 (2024. 4. 17発信) 灌水量や灌水頻度の違いによる土壌水分の動態を把握するため、竹田市のトマト生産者圃場（2戸）に土壌水分センサーを設置しました。 栽培期間を通して土壌水分のデータを測定し、灌水管理と土壌水分率の変動の関係を検証することを通じて生産者の栽培技術向上に役立てます。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.5.31
1672	農業研究部	【下水汚泥資源の活用促進に係るMAP混合液肥の製造利用技術に関する実証研究】 (2024. 4. 10発信) 当チームは化学肥料の代替として、下水汚泥資源から開発された再生リン(MAP)混合液肥を用いてピーマンの栽培実証試験を進めています。 4月5日に農業研究部内のハウスでピーマンを定植しました。今後は窒素成分の異なる2種類のMAP混合液肥と市販の液肥で、ピーマンの生育・収量を比較してMAP混合液肥の肥料代替適応性を検証します。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.4.30
1671	農業研究部	【茶の萌芽調査をしています】 (2024. 4. 9発信) 茶の収穫適期の指標となる萌芽の調査をしています。大分の今年の桜は昨年より2日遅く満開となりましたが、農業研究部の茶園（豊後大野市、標高151m：品種「やぶきた」）は、昨年よりも7日遅い4月5日に萌芽しました。予想気温、平年気温から推測すると、摘採日は昨年より4日遅い5月1日となりそうです。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

②水田農業グループ

(計1件)

1687	水田農業グループ	<p>【種子用麦の収穫が始まりました！】 (2024. 5. 28発信)</p> <p>麦類採種生産者に供給する種子（原種）の収穫作業が始まりました。今年には二条大麦「トヨノホシ」と、小麦の「はるみずき」「チクゴイズミ」の3品種を栽培しており、今回は「トヨノホシ」の収穫を行ないました。残りの品種についても、随時収穫を進めていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2024.6.30
------	----------	---	--	-------------------------------------	------------------	-----------

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
③果樹グループ (計1件)						
1676	果樹グループ	<p>【カンキツの摘蕾作業】 (2024. 4. 22発信)</p> <p>5月になるとカンキツ類が白い花を咲かせ始めます。当チームが所在する津久見市では、連休明けの5月10日頃に開花のピークを迎えます。開花を前に「摘蕾（てきらい）」という蕾（つぼみ）を摘み取る作業を行っています。樹の状態にあわせて蕾を摘み取ることで、弱った樹の樹勢回復や幼木の枝の伸長を促します。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
④花きグループ (計6件)						
1704	花きグループ	<p>【花き栽培有望品目リアトリス】 (2024. 6. 13発信)</p> <p>花きグループでは遊休化したハウスの有効利用を図るため、様々な草花の試験を行っています。その中でも無加温で栽培できる有望な品目としてリアトリスがあげられます。この花の季咲きは6月から7月で施設と露地でリレー栽培をすることが可能です。また、宿根草で数年に渡って採花することができ、かつ栽培が容易で切り花品質にも優れています。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1694	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの現地試験を行っています】 (2024. 6. 3発信)</p> <p>県オリジナル花きであるヤマジノギクの季咲きは10月以降ですが、施設内にある設備を利用して開花時期を調節することができます。花きグループでは輪ギクの年間作付け体系にヤマジノギクを組み入れて新たな作付けを確立する試験に取り組んでいます。このたび現地での実証試験で、ヤマジノギクを輪ギクと同時に定植しても開花することが確認でき、課題解決を進めています。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1690	花きグループ	<p>【5月に収穫できるホオズキを作っています】 (2024. 5. 29発信)</p> <p>ホオズキという「お盆の花」というイメージが強く、需要もほぼその時期に限られます。花きグループでは、周年で収穫できるホオズキの栽培試験に取り組んでおり、今年度は無加温で5月に収穫する試験を行いました。5月収穫のホオズキは、実需者から「グリーンが鮮やかで面白い商材」との意見を頂いており、今後に期待しているところです。</p>	 5月収穫のホオズキ トルコギキョウとあわせると鮮やか	花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1684	花きグループ	<p>【低コストで栽培できるトルコギキョウの定植を行いました】 (2024. 5. 16発信)</p> <p>トルコギキョウは施設栽培が一般的ですが、昨今パイプ等各種資材や重油等が高騰しており、経営を圧迫する要因となっています。このため花きグループでは露地や簡易施設を利用した低コスト栽培試験に取り組んでいます。このたび大分県オリジナル品種や市販品種など計15品種の作付けを行いました。今後は8月の収穫に向け生育調査を行います。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1678	花きグループ	<p>【シクラメンの鉢上げを行っています】 (2024. 4. 25発信)</p> <p>冬を彩る花といえば真っ先に思い浮かぶのがシクラメンです。現在、花きグループではセルトレイで育苗した苗をポットに移し替える作業を行っています。今年は定番の花色である赤やピンク、白に加え、芳香を放つものなど様々な種類のシクラメンを試験の一環で栽培しています。11月中旬から場内販売を行いますので、お気軽にお越しください。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.5.31
1677	花きグループ	<p>【露地でも栽培できるホオズキの定植を始めました】 (2024. 4. 25発信)</p> <p>これまでの本県のホオズキ栽培はハウス栽培が中心でしたが、パイプ等各種資材が高騰しており、このことが新規栽培者の参入や既存農家規模拡大の妨げになっています。そのため、露地や低コストで導入できるミニハウスで生産可能なホオズキ栽培の技術開発に取り組んでいます。現在ホオズキの定植を行っており、今後は生育調査を行います。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑤畜産研究部 (計3件)						
1689	畜産研究部	<p>【令和6年度前期試験交配種雄牛の紹介（試験交配期間：R6.5.15～7.31）】 （2024.5.28発信）</p> <p>候補種雄牛である「秀保久」と「葵清国」の現場後代検定に向けた試験交配が5月15日から始まりました。今後、試験交配で生まれた子牛の肥育調査（現場後代検定）が行われます。</p> <p>(1)「秀保久（ひでやすひさ）」（秋桜幸-福之姫-安福久） ・脂肪交雑のゲノム育種価は県内歴代2位 (2)「葵清国（あおいきよくに）」（葵白清-福之姫-美津照重） ・牛伝染性リンパ腫発症抵抗性遺伝子009:02を保有</p>		畜産研究部 肉用牛改良肥育チーム	0974-76-1217	2024.6.30
1688	畜産研究部	<p>【一番草の刈取を始めました】 （2024.5.28発信）</p> <p>畜産研究部には約56haの牧草地があり、牧草の試験研究や場内利用を行っています。 5月2日からオーチャードグラス主体草地の一番草の刈取りを始めました。収穫適期の出穂期に達しており、例年通りの生育で推移しています。5月中に一番草の乾草収納を終了し、二番草を7月、三番草を9月に刈取る予定です。</p>		畜産研究部 飼料・環境チーム	0974-76-1219	2024.6.30
1679	畜産研究部	<p>【就農準備研修（畜産コース）開講式が行われました】 （2024.4.25発信）</p> <p>4月5日に令和6年度就農準備研修開講式が行われました。今年度、県内での自営就農を希望する3名が3月4日までの11カ月間、畜産の知識や技術を学ぶとともに、家畜人工授精師免許などの各種資格・免許取得を目指し畜産研究部で研修を行います。 将来の畜産担い手として大いに期待されます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑥林業研究部 (計2件)						
1701	林業研究部	<p>【早生樹造林の情報交換】 (2024. 6. 12発信)</p> <p>林業研究部森林チームでは、循環型林業の確立に向けたスギやコウヨウザンなどの成長の早い早生樹の研究に取り組んでいます。 今回、豊肥地域で早生樹造林に取り組んでいる企業が、研究部の試験研究の取組みの視察を兼ねて来訪され、早生樹造林の情報交換を行いました。(4/26、5/29) 今後も試験研究及び情報収集に努め、早生樹造林の取組みを加速化させていきます。</p>	 <p>コウヨウザンの成長確認</p>  <p>苗木生産方法の検討</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.6.30
1693	林業研究部	<p>【木材乾燥試験の実施】 (2024. 6. 3発信)</p> <p>林業研究部木材チームでは、2台の木材乾燥機がフル稼働しています。 県産スギ大径材を活用するために、製材・乾燥における材の曲がり抑制技術の開発と、従来の蒸気式乾燥だけでなく減圧乾燥や高周波乾燥を組み合わせることで、効率的に高品質な乾燥材を生産する技術について取り組んでいます。</p>	 <p>蒸気式乾燥機</p>  <p>多機能木材乾燥機</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑦きのこグループ (計1件)						
1700	きのこグループ	<p>【乾シイタケ判定会の開催】 (2024. 6. 12発信)</p> <p>きのこグループでは、乾シイタケの新品種育成に取り組んでいます。6月3日に昨年の秋から春にかけて発生したシイタケの判定会を開催し、一次、二次選抜中のシイタケの発生量、形状、発生時期等を確認しました。今後、種菌メーカーと連携して、品種の選抜を行います。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
③水産研究部 (計6件)						
1700	水産研究部	<p>【スマート技術を活用したヒラメの養殖試験施設を整備しました！】 (2024. 6. 12発信)</p> <p>当研究部では持続可能なヒラメ養殖の確立に向け、スマート化された養殖試験施設を整備しました。本施設では給餌作業の省力化を図るための自動給餌システムや、赤潮発生時のリアルタイム監視と即時対応を可能にする、遠隔操作システムの開発を行います。今後は生産者の意見も取り入れ、現場に役立つシステム構築を目指します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30
1695	水産研究部	<p>【魚病及び赤潮担当者会議を実施しました！】 (2024. 6. 4発信)</p> <p>5月29日に当研究部で、市町村、漁協職員を対象とした「魚病及び赤潮担当者会議」を実施しました。赤潮については、過去の発生状況、今年度の発生予測、漁業被害が発生した際の対応などについて説明しました。魚病については、令和5年度の発生状況の報告、新たな疾病に関する情報提供等を行いました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30
1692	水産研究部	<p>【ドローンによる赤潮監視を行います！】 (2024. 5. 30発信)</p> <p>当研究部では、今年度赤潮被害を防止するため、ドローンを活用した赤潮監視技術の開発に取り組んでいます。本技術の確立により、今後、赤潮発生時に速やかに空撮を行うことで、海面の色による赤潮種類の推定、発生場所の特定、発生域の拡大及び流向監視などの効率的・効果的な赤潮監視が期待されます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30
1691	水産研究部	<p>【貝類養殖による漁場環境の改善に取り組みます！】 (2024. 5. 30発信)</p> <p>植物プランクトンを食べて成長する二枚貝類の養殖を実施することで、魚類養殖による栄養負荷を陸上に回収し、富栄養化した湾内の漁場環境の改善を図ります。 山口県栽培漁業センターから平均殻長6mmのアサリ6万個を受入れ、水産研究部の海上筏で中間育成した後、11月から蒲江猪串湾で養殖試験を実施する予定です。</p>	 <p>アサリ稚貝 中間育成</p>	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30
1683	水産研究部	<p>【養殖関連事業説明会を開催しました】 (2024. 5. 10発信)</p> <p>4月23、25日に陸上養殖（主にヒラメ、トラフグ）業者を対象に当部の関連事業の説明会を佐伯市で開催しました。 近年の養殖魚の病気の発生動向や、IoTを活用した自動給餌機能や水槽監視システムの開発状況の説明のほか、ヒラメの食中毒の原因となる寄生虫クドア・セブテンプレクタータの検査に関する注意点を周知しました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.5.31
1673	水産研究部	<p>【流れ藻分布及びモジャコ(ブリ稚魚)の付着状況調査を実施中！】 (2024. 4. 15発信)</p> <p>ブリの養殖用種苗として稚魚を採捕する今年度の「モジャコ漁」が4月1日に大分県海域で解禁されました。当研究部では、3月中旬から5月上旬まで6回程度、調査船「豊洋」で海面に漂う流れ藻を採取し、流れ藻に集まるモジャコ等の付着状況を調べ、結果を速やかに県内のモジャコ漁業関係者に提供しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
◎北部水産グループ (計4件)						
1703	北部水産グループ	【ヒジキ種苗生産 最盛期】 (2024. 6. 13発信) ヒジキが成熟するこの時期は、当グループでも種苗生産が最盛期となります。母藻の成熟状況を見極め、卵(0.2mm程度)の放出を待ち、水槽内の受精卵を目合い(めあい)0.1mm程度の網で集めます。 受精卵は発芽が進むと物に付く性質があるので、コンクリートブロックなどに付着させます。 こうして得た種苗を使用して養殖試験等に用い、ヒジキの繁る海を目指します。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.6.30
1696	北部水産グループ	【オゴノリ天然採苗はじめました】 (2024. 6. 6発信) 寒天原料や刺身のつまなどに利用されるオゴノリはこの時期に成熟します。当グループではオゴノリ養殖試験を行うため、6月4日に天然採苗を行いました。 宇佐市地先のオゴノリが生息している干潟上にノリ網を設置し、胞子の付着を待ちます。今後、胞子の付着状況を調査しながら天然採苗方法の確立を目指します。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.6.30
1686	北部水産グループ	【赤潮・貝毒プランクトン調査 実施中!】 (2024. 5. 21発信) 瀬戸内海域では水温が上がり、日差しが強まる5月頃から赤潮の発生が危惧されるため、周年で行っている貝毒プランクトン調査に加え、赤潮プランクトン調査も実施します。5月から9月の間、月に2回から3回の頻度で取水して調査を行います。 なお、昨年度も本県瀬戸内海域において赤潮や貝毒による漁業被害は発生しておりません。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.6.30
1682	北部水産グループ	【新たなアユの遡上調査を実施中】 (2024. 5. 9発信) 当グループでは毎年、大野川のアユの遡上時期や遡上サイズを把握するために、アユの遡上調査を実施しています。今年は遡上量も把握するため、初めて定置網を用いた捕獲を試みました。雨による増水で何度か中断しましたが、今後、新たな調査方法となるよう漁業者の意見等を参考に改善していきます。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.5.31

令和6年度発信「農林水産研究タイムリー情報」バックナンバー

農林水産研究タイムリー情報

2024年7月1日時点

(合計37件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑩農林水産研究指導センター（計0件）

	センター本部					
--	--------	--	--	--	--	--